

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成28年度 第11回
開催日時	平成28年6月23日（木曜日） 午後6時から7時まで
開催場所	田無庁舎 5階 503会議室
出席者	出席：石崎委員長、小澤副委員長、岩本委員、深田委員、篠宮委員、渡辺委員、入沢委員、尾関委員、小松委員、佐々木委員、鈴木委員 欠席：井上委員、島委員、鍵主委員、洞澤委員 事務局：山田課長、渡邊係長、本間主事
議題	報告 （1）沿線3市（清瀬市・東久留米市・西東京市）男女共同参画連携事業について 議題 （1）第10回男女平等参画推進委員会会議録（案）の承認について （2）2年間の振り返りについて （3）その他
会議資料の名称	【配布資料】 （1）第10回男女平等参画推進委員会会議録（案） （2）沿線3市（清瀬市・東久留米市・西東京市）男女共同参画連携事業の概要
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

《開会》

○委員長：これより第11回男女平等参画推進委員会を開催いたします。

事務局より4月1日付人事異動の報告、配布資料を確認した。

事務局より委員の半数以上が出席しているので委員会が成立している旨、傍聴人がいる旨の報告をした。

報告

(1) 沿線3市(清瀬市・東久留米市・西東京市)男女共同参画連携事業について

事務局より資料2について説明、報告をした。

○委員：アンケートはどのくらい発送するのですか。

○事務局：対象事業所は3市で1500事業所、西東京市で600事業所、東久留米市で500事業所、清瀬市で400事業所に配布予定です。調査結果についてはご報告させていただきます。

○委員：予算はどれくらいなのですか。

○事務局：助成金の上限額が年間500万円となっていますが、他の事業もあるため企業等調査に500万円使用できるわけではありません。

(1) 第10回男女平等参画推進委員会会議録(案)の承認について

○委員長：事前に確認していただいていると思いますが、会議録について訂正がなければ承認してよろしいでしょうか。

異議なく承認された。

(2) 2年間の振り返りについて

○委員長：皆さんに2年間委員をつとめた感想を伺いたいと思います。一人3分程度を目途に感想を頂ければと思います。

○委員：この2年間に妊娠出産、休暇をもらいました。この委員会では子どもの保育を付けてもらっていて、それも事務局側では初めての試みということでしたが、子連れの主婦にこのような対応をしてもらえて感謝しています。私と同じような方たちにもさらに男女平等推進に興味をもっただき、推進していける西東京市になっていただければいいなと思いました。私は、大学時代に女性学を勉強しましたが、委員会ではそれを思い出したり、西東京市の状況を知ることができたり勉強になりました。元々、パリテは知っていましたが、どのような活動をしているのかまでは知らなかったのが、今後子育て事業で市と協働事業をしておりますので、男女平等のことも参加していただいた方に伝えていきたいと思っています。

- 委員：西東京市には、講師として公民館事業に呼んでいただいたり、市長の諮問委員会の委員で補正予算の委員をつとめたりしましたが、自分の専門は男女平等なのに、なぜ男女平等の担当部署から声がかからないのかと思っていました。そういったところで少し思うところがあり、今回市民委員として応募をしました。委員になって思ったのは、ワークライフバランスのことで、市の担当者がきちんと意識しているのかどうかということでした。皆さんほとんど無自覚に仕事をしていて、市役所の職員や議員の方たちにそういったところを意識してもらわないと変わらないと思っています。男女の有り方について、もっと問題意識をもっていかなければいけないと思います。
- 委員：日頃活動しているのは、市の受諾事業で、学童クラブや児童センターのように放課後の居場所づくりをしていまして、西東京市に事務局があり、理事・事務局長をしています。市民委員に応募したのは単純に勉強がしたいと思ったからです。初めは自分の勉強不足を感じ、皆さんにも迷惑をかけましたが、2年を経過してみても振り返ると、真剣に委員として探求をしなければいけないと思いました。また機会があれば、この2年間で学んだものを活かして、男女平等推進の力になりたいと思っています。この2年間で気付いたのは、子どもの居場所事業をしている所管課が自分たちの評価項目を理解しているかどうかということです。事業評価の項目の中でわたしの放課後の居場所事業の所管課もありました。子どもにとっての男女平等というものをどう進めていったらよいのか、担当者はわからないかもしれないと感じ取りました。子どもの時代で、男女をどのように子どもの居場所の中で伝えていくのか、それを伝えられる西東京市になっていくために市民が少しずつ勉強しながら所管課の職員にも提案をしていけるようになればいいなと特に感じました。
- 委員：私自身は母子家庭で育ちました。大学の時も思想史で男女の差別意識を課題にしているシモーヌ・ヴェイユという人を研究課題にし、その後公務員となり婦人相談員と母子相談員を7年ほど兼務することがありました。現在は、嘱託と言う形で勤めていますが、今いる職場は圧倒的に男性職員が多く、男性同士では伝わる言葉が多く飛び交っています。女性を同等にみるのとは違う扱いをしているように感じています。前の勤務先では男女同数で職場配置が考えられ、お互いを働く仲間として扱い、日常的に男女の差別なく、ともに同じように人格をもつ人間として意識されていたと感じていました。現在の職場では言葉の上での差別はありませんが、日常的には差別があると思います。委員会に参加させていただき、男女は平等で、ともに人格をもつ人間であることが特に、若い世代を含め当然のことと理解され、男女平等参画社会実現に向けて何が必要かを委員の方々とともに引き続き考えていきたいと思っています。
- 委員：私は20代から西東京市民であり、その間に出産、育児、保育園へと子どもを通わせ、学童クラブの設立に関わってきました。当時、働き続けたいという思いは男女平等というよりも働かなければいけないということにありました。学校関係の仕事をしており、仕事場も市内であったため西東京市とは深い関わりがあり、市民委員という立場で委員会に参加してみようと思ったきっかけです。委員会に参加して市役所、行政をいかに自分が知らなかったのか、また、市役所というものの存在も非常に身近になりました。男女平等参画推進計画や男女平等推進セ

ンターについても目にすることはありましたが、どのようなものか自分の中に実感として湧きませんでした。私の60代の友人もこれらのことについてほとんど知りません。これまで働いている時にはなかなか男女平等推進センターに来られなかったということもありますが、時間ができた今でもそこへ行くかというところでもありません。その一方で、男女不平等や家庭の中でも声を上げられない人がいるという現実もあります。そういう事に対して、委員会では各事業の評価をさせていただいて、市役所がどのようなことをしていて、苦勞をされていることも理解できました。市民の目で見ることができたことが大事なことだったと思います。男女平等推進係があることも知らない人がほとんどなので、そういう係があることを私の周りの人には言うようにしています。パンフレットで知っている人も実際に見るまでには至らないので、実際に行って、こういう人がいるという話をしています。また、今は色々な事業にも男の人が増えていて、若い父親が参加しているのをみて若い人たちが変わって行くこと、一人ずつが変わって行かないことには全体を変えることは難しいと思っています。ここで得たものを委員皆さんで発信して、男女平等参画を進めて、人間として生きやすくしていくことがワークライフバランスにつながると感じています。

- 委員：この委員会の雰囲気がとてもいいです。一人ひとりの委員が相手を尊重しながら自分の意見を言い合うとてもいい雰囲気の中で2年間を終え、勉強をさせていただきました。また事務局側が委員の意見を制止することもなく、意見をくみ上げて文章と言う形にして下さるという関係も良かったと思います。委員会の運営についても正・副の委員長の組み合わせが良かったと思います。また、男女平等参画推進計画の中に配偶者暴力対策基本計画を入れることができて良かったです。しかし、宿題として4つほど伝えたいことがあります。1つ目は、委員会が計画を評価・策定をしても、わかってほしいと思う他の職員や市民に浸透していかないことです。一番近い男女平等推進センターの企画運営委員会さえもこの委員会が何をして何を進めている、今は何が足りないのかということが伝わりません。そういったことから企画運営委員の一人をこの委員会に招いて、何をしているのかを知ってもらいたいです。そうすることで情報誌の作成にも今、求められていることや足りないこと、市民に何を発信したいかという思いを情報誌の内容につなげられると思います。私がこういうことを言うのには理由があります。私自身が以前公民館運営審議会委員をつとめているときに図書館運営審議会委員に出席したところ、そこで社会教育課とつながることができて良かったと思いましたので、提案をします。2つ目は、男女平等参画推進計画を策定してからずっと低い評価のままのところをどうしていくか考えていくことです。なかなか進まない事業をやらないとするのではなく、必要であっても少ない職員体制の中でできないのであれば、委員会として今年はここをやっていきたいというアクションプランのようなポイントをもって推進することはできるのではないかと思います。今、3市連携事業に力をいれてやっているところではあると思うので、ひとつのポイントをもって取り組めば良いと思います。3つ目は、庁内の意識啓発についてです。かつては部課長との懇談会や横断的な委員会も行っていましたが上手くいきませんでした。何らかの形で市民だけでなく職員にもわかってもらわないと将来的にも男女平等参画を推進していくことは難

しいと思います。最後に、社会は婦人問題から女性問題、男女平等参画、ジェンダーフリー、ワークライフバランス、今はダイバーシティの時代になって言葉ばかりが先行して新しいことが起きているように思えますが、根本は変わっていません。家に帰れば子どもを育ててどうやって上手く地域と一緒にやって行こうか、そこをはいつくばって改革してきたのが今の私たちの世代です。ただ、次世代はどうするのかということですが、子ども達にどうやってこの理念、人権意識を伝えて行くのかということが宿題だと思っています。これからも市民としてNPOとして何らかの働きかけをしていきたいと思っています。

○委員：この委員会への民生委員の出席は私の前はずっと女性が参加していて、前回の改選から女性よりも男性が出席した方が良いと話があって委員となりました。私自身が民生委員として活動するにあたっては、女性と接することを考えると女性の民生委員の方が話しやすいと思っていました。例えば夜、男性の民生委員が女性の家に行くと、女性もドアを開けにくいようなことがあります。それ故に、民生委員も女性が多いのは当たり前だと思っていましたが、定年を迎え、自分の生涯学習に入った時にもう少し男の人に福祉を知ってもらうためには民生委員をやってもらうのが良いと思いました。民生委員の会長を受けた時に、約150人いる民生委員のうち男性はごく少数という状況でした。先程申し上げたように、女性の民生委員が良いとの意見もありますが、男性の民生委員でもできることはあると思っていて、女性の民生委員が夜訪問をする時に夫についてきてもらうよりも男性の民生委員と一緒に話を聞く方がプラスになるのではないかと考えています。そのようなことから3年前から男性の民生委員を増やすために生涯学習に興味がある方を対象に呼びかけをして今は男性の民生委員は25人くらいになっています。11月に改選がありますが、これからは男性を増やしていきたいと思っています。今回の委員会では今まで聞いたことのないような言葉を聞く機会がもてて非常にいい勉強になりました。

○委員：ますます女性が厳しい社会だと感じています。社会が賢くなり、ダイレクトに「女は○○」という表現ができなくなっています。しかし基本的なところがなかなか変わっていないことは事実です。第4次男女共同参画基本計画も横文字が多く、言葉巧みに耳障りが良い言葉で伝わってきますが、色々な負担が女性にかかっています。これ以上女性に負担が行くことは次世代にとっても大変な時代です。きめ細かな意識啓発が大事だと思います。平成27・28・29の3年度の計画の中でいくつかポイントがありますが、これからは「女性の○○」ではなく、「男女の○○」という基礎基盤を作って行かなければならないと思っています。これを基本的なテーマにしていただければと思います。

○委員：市長への諮問に応じて答申をすることが委員会の重要な仕事の一つだと考えていますが、それに加え、今回の委員会に参加をすることで、それぞれの委員の皆様様の専門的な立場や市民代表としての立場など、色々なお話を聞くことができ、大変勉強になりました。私は労働者、使用者双方から労働に関する相談を受けています。その中で、項目別には、「退職」に関する相談が一番多いのですが、ここ2年は「職場での嫌がらせ」というものが急増しています。パワハラ、セクハラ、マタハラも多くあり、皆さんの話を聞いていると現実が見えてきて考えるヒ

ントをもらえるように思います。私の仕事は社会を変えようという大きなものではなく、困っている人の話を聞き、どのように対応するかという性質のものなのですが、委員の皆様の意見はとても参考になります。最後に、このような委員会はいくつか参加をさせてもらってききましたが、本委員会は事務局の職員の皆様がとにかく委員を大事にしてくれていると思い感謝しています。ご苦労は多いことだろうと思いますが、だからこそ自由に意見を言い合える、とても良い雰囲気の委員会になっていると思います。ありがとうございました。

- 副委員長：今期は参加メンバーの人柄なのか、特に自然と議論が深まる委員会であったと思います。この委員会の委員は自己犠牲の精神、理念だけをもって活動されている方も多く、頭があがらない思いです。
- 委員長：みんなが意見を言い合える委員会にしたいと思っていて、他の地域の審議会に参加をしたとき、型どおりに進むことにはかなりの抵抗を感じていました。このような立場で委員会を引き受けたからには皆さんの意見が少しでも出るように、市長にお目にかかる時は市民と市長が仲良くなってほしいと皆さんに声をかけて話を交わせるようにと心掛けてきました。その結果、市長答申では委員長、副委員長だけではなく、委員の皆さんと一緒に市長と話をすることができて良かったです。今後も交流を深めて行ければと思います。
- 事務局：今の委員の皆さんの感想を聞いて、2年間の様子がわかった気がします。委員の自由な意見が言える委員会が良いものであると実感をし、これからもそうしていきたいと思っています。
- 事務局：委員の方にはよく声をかけていただいて、特定の人と深くかかわり意見を聞くことができたのはとてもいい経験になりました。

(3) その他

- 事務局：本日の会議録ですが、メールや郵送で訂正が無い場合でも返答をお願いします。
- 委員長：これで第11回の委員会は終了いたします。

【閉会】